

今、授業改革が始まる！

平成30年度 香南市立野市小学校版

国語科 における 資質・能力の育成を目指した 授業づくりのポイント

主体的な学びを促す授業構成・授業展開

授業分析

6年生 『わが町盛り上げ計画についてプレゼンテーションをしよう』
教材名 「町の幸福論—コミュニティデザインを考える」

1. 単元づくりの三要素

付けたい力

既習事項における児童の実態を把握し、本単元で付けたい力を設定する。

- ・自分たちの町をよりよくする提案をするために、複数の本や文章を選んで比べて読み、必要な情報を選ぶことができる。
- ・自分たちの町をよりよくする提案が明確に伝わるように、適切な事例を取り上げたり、必要な文言や数値を引用したりして、発表原稿を書くことができる。
- ・筆者の立場や考え方に注意して読み、自分の考えを広めたり深めたりして、考えをまとめることができる。

〈期待する単元末の児童の姿〉

- ◇「町の幸福論」を読んで、複数の事例や資料を組み合わせた提案をすると、聞いている人を納得させることができた。
- ◇野市の町の現状について改めて考えることができた。たくさんの事例から、「人と人とのつながり」や「主体的」というキーワードをもとに取組を選び、発表原稿を作ることができた。

単元末に児童がこんな振り返りを書くような学習にしたい。

言語活動

言語活動の特徴と指導事項との関連を図り、付けたい力に最適な言語活動を設定する。

- ・自分たちの町の現状と未来について考え、町を元気にするための提案を地域の人に向けてプレゼンテーション形式で行う。

たくさんの本や資料に触れることを通して、関連付けながら考える力を養いたい。

教材

教材文の特徴と指導事項との関連を考え、付けたい力に最適な教材を設定する。さらに、単元に関連する図書資料等の開発をする。

- ・この教材は、コミュニティデザインの紹介を通して、事例を挙げて、人と人とのつながりを大事にした主体的な取組をすべきだという筆者の主張を述べている。
- ・単元に関する本や資料を選書し、パスファインダーにまとめ、読書環境を整備する。

2. 児童に付けたい力が確実に身に付いていく単元構想

《第一次》児童に学習の必要性を感じさせたり学習の目的をもたせたりする

- ・総合的な学習の時間と関連させ、「幸福度ランキング」を取り上げたりすることでわが町の現状を認識し、自分たちの町を元気にしたいという願いを持ち、町の未来について考えようとする動機付けをさせる。

《第二次》「教材を読む時間」と、「自分の課題解決に向けた時間」を折り混ぜることで、自分の学びを自覚させる

① 「町の幸福論」を読んで、文章の構成と序論の内容を確かめる。



② 文章の要旨を捉え、自分たちの町の未来について、自分の考えをもつ。

③ グループで、自分たちが描いた未来の町と提案の内容（取組）を話し合う。

④⑤ 取り上げられている3つの事例の内容を読み取り、資料の効果について考える。

⑥ いろいろな資料を読み、必要な情報を集める。



⑦ プレゼンテーションを効果的にするために、事例や資料を取捨選択する。

主

課題解決型の学習になるような構想を工夫し、教材文を読む際には、筆者の考えや述べ方をモデルにしたプレゼンテーションの原稿を書くという力を身に付けさせる。

- ・毎時間の学習活動が、設定した言語活動とつながりがある意味のある学習活動にする。
- ・前時に習得した知識や技能を本時に活用しようとしたり、新たな方法を見いだそうとしたりするなど、学習が進むにつれ、言語に関する技能が習熟していくような二次の流れを設定する。
- ・授業改善に生かしたり、自己評価力を育成したりするために、毎時間「学習のめあて」にそった振り返りを行う。

よい学びを実感させる工夫

（児童の振り返り）
自分たちが考えるような町にするために、何をやるかということ考えるのが難しかったけど、「人と人とのつながり」「主体的」をキーワードに、他の町の取組を参考にすると考えやすかった。プレゼンテーションには具体的な数値やグラフがあると説得力が増すということが分かった。

《第三次》自分の変容と、学習と実生活とのつながりを感じさせる

主

- ・学びが自分たちの日常に活かされたと感じられる場を設定する。
- ・単元を通して、自分にどんな力が付いたか、説明したり評価したりすることで振り返りをする。